

転移性肝腫瘍に対する重粒子線治療の概要

プロトコール番号:1802-3

治療プロトコール	転移性肝腫瘍に対する重粒子線治療 1802-3
対象	転移性肝腫瘍(3個以内)
治療方法	1日1回 週4回照射法 1) 末梢型 総線量 60.0 Gy (RBE)/4回または 58.0 Gy (RBE)/1回 2) 消化管近接型、肝門部型 総線量 60-68 Gy(RBE)/4-8回 または 60-68 Gy(RBE)/12-16回
適格条件	<ol style="list-style-type: none"> 画像診断および臨床経過によって診断された転移性肝腫瘍で、原発巣は手術や放射線治療などで制御されている、もしくは制御可能 ただし上記診断が不可能な場合は、肝生検による組織診断を要する 3個以下の転移性肝腫瘍であり、それらが全て近接し、同一照射野内で治療可能である(ただし治療体積の最大径が15cm以下) 肝外転移がないか、制御可能と判断されている Child-Pugh score が9点以下(grade A, B) ただし重粒子線治療により肝不全を来すリスクが高い場合には、カンササーボードにより適応を判断する Performance Status(ECOG 基準) 0-2 化学療法、肝動注療法から4週間以上経過 本人に病名・病態の告知がなされており、患者本人から文書による同意が得られている カンササーボードで、重粒子線治療の適応ありと判断されている
不適格条件	<ol style="list-style-type: none"> 臨床的標的体積に消化管が接する 当該照射部位への放射線治療の既往がある 臨床症状のある間質性肺炎又は肺線維症を合併している 照射領域に開放創や活動性で難治性の感染、炎症疾患を有する 他臓器に活動性の重複癌を有する ただし、根治治療により治癒と判断された場合、もしくは治癒が見込める場合を除く(もう一方の悪性腫瘍の治療先行を推奨) 門脈本幹、総肝管に及ぶ腫瘍塞栓を有する 治療抵抗性の腹水がある 高度に発達した肝外門脈側副血行路を有する門脈圧亢進症がある 治療を要するか、治療困難な胃または食道静脈瘤を有する 妊娠または妊娠している可能性がある。 医学的、心理学的または他の要因により不適格と判断された場合
治療の種類	先進医療